

第9章 対象事業に係る環境影響の総合的な評価

当該事業に伴う工事は、N-4.1 で実施しており、その期間を含む平成 19 年 7 月から平成 25 年 2 月までの期間における調査の結果をみると、事業の実施に伴う環境への影響については、現時点では概ね評価書で想定した範囲であると評価した。

以下、表 9-1 に、各調査項目の総合的な評価を示した。

表 9-1 各調査項目における総合評価

調査項目		評価結果
騒音	建設作業騒音	工事中における時間帯区分の平均値は、東村高江で33dB(a)、東村車で35dB(A)であり、工事に伴う影響は確認されなかった。
	道路交通騒音、交通量	工事中における時間帯区分の平均値は、東村高江で52dB(A)、54dB(A)、東村車で56dB(A)、59dB(A)であり、工事に伴う影響は確認されなかった。
赤土等による水の濁り	下流河川でのSS濃度、濁度、流量	<p>平成23～24年度の平常時におけるN-4.1下流の沢でのSSは、1未満～1mg/Lであり、現時点では環境への影響はないものと評価した。</p> <p>降雨時においては、土工事実施中の期間の結果は評価書の予測値を上回っていたが、その数値は118mg/Lと低い値であり、土工事開始前の最大値(187mg/L)と比較しても低い値であった。</p> <p>濁水処理設備における処理水は、全てSS換算濃度25mg/L以下であり、本年度の工事に伴う濁水は適切に処理されていた。</p> <p>下流河川におけるSPRSでは、工事前と比べて大きな変化は確認されなかった。</p>
植物	流下経路における貴重な植物種及び渓流河岸植生の生育・分布状況	流下経路における貴重な植物種については、平成23～24年度の調査において、赤土等による濁りによる生育状況の悪化等が見られなかった。また、渓流河岸植生においても、生育・分布状況に変化は見られなかった。
	貴重な植物種の移植後の生育状況	<p>N-4地区及びH地区は、移植した58株のうち、平成24年度の段階で49株が生存しており、全体の生存率は84%である。</p> <p>N-4地区の移植株の生存率は、N4①において、[REDACTED] 17%(1株/6株)、[REDACTED] 33%(1株/3株)、[REDACTED] 0%(0株/1株)であった。N4②においては、[REDACTED] 100%(6株/6株)、[REDACTED] 100%(1株/1株)であった。</p> <p>H地区の生存率は、[REDACTED] 100%(19株/19株)、[REDACTED] 100%(5株/5株)、[REDACTED] 100%(9株/9株)、[REDACTED] 88%(7株/8株)であった。</p> <p>N4①以外では、移植した株の生存率は高く、移植株の開花や結実、新芽の展開等も確認された。</p> <p>N-4地区の移植地N4①では、生存株が減少しており、枯死原因を踏まえ、次年度以降の移植に反映するものとする。</p>
	林内の気温・湿度	林内の気温・湿度については、林内の調査地点において、大きな変動は確認されていない。
	影響範囲50m内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況	影響範囲50m内における貴重な植物種及び植生の生育・分布状況は、生育する貴重な植物種の減少等の変化は確認されていない。
	早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況	早期緑化帯においては、マント群落・ソデ群落及び無障害物帯におけるモニタリング調査の結果、植被率の増加傾向が確認されている。
	事業実施区域における貴重な動物種の生息状況	平成23～24年度の調査においては、生息状況が悪化している状況は確認されなかった。
動物	流下経路に生息する貴重な両生類・魚類・水生昆虫類の生息・繁殖状況	平成23～24年度の調査においては、流下経路の生息・繁殖状況が悪化している状況は確認されなかった。
	貴重な鳥類・カエル類の繁殖状況	平成23～24年度に実施した調査においては、繁殖状況の大きな変化は確認されなかった。
	建設機械騒音の状況及び貴重な鳥類・カエル類の繁殖状況調査	工事ピーク時期の重機の稼働状況において、繁殖地における騒音状況は、等価騒音レベルの時間帯平均は38 dB(A)であり、評価書の影響レベル70dB(A)と比較して低い値であった。
	貴重な動物の移動後の生息状況	移動した個体は、環境の変化に伴い若干の変動はみられるものの、その多くは新たな環境において生息しているものと判断した。
	工事用車両の走行に伴うロードキルの状況	ロードキルが確認された種は3種17個体であり、事故多発地点は確認されず、工事関係者の周知の実施と併せて工事用車両の走行に伴う影響は低減されているものと判断した。